



基調講演

わたしが見た山梨県の 30 年と今後

地方職員共済組合

理事長 平嶋 彰英

ご紹介いただきました平嶋です、よろしく
お願いします。私が山梨県に勤務したのは 2
回でございます。今日は大変なつかしいお顔
の方もたくさんいらっしやっていただきまし
てありがとうございます。昔から歯に衣を着
せず言うほうですので厳しいことも言うかも
しれませんが、よろしく願いいたします。

今、話題になっているのが人口の推移であ
りまして、今、理事長さんからもお話がありま
したように今後わが国は人口が減っていくのだと、その時にどうしていくかというこ
とが盛んに言われているわけでありまして。そういう前提のもとで「私が見てきた山梨
県の 30 年」と、今回パンフレットに書いてありますけども、私が着任したのが昭和 61
年、それから 30 年であります。当時は、山梨県にたいへん勢いがある時でありまし
た。その象徴が、今日来ていただいております商工会議所の金丸さんのお父さまの金
丸信先生だったりするわけです。私はこの会場にたいへんに思い出がありまして、出
来てまもなくこのホテルで、金丸信先生副総理就任祝賀会というのが大々的に行わ
れたことをよく覚えております。そんなこともあって、その当時、金丸先生のお力も
あってリニアの実験線が来ることになったり、いろいろなことがありました。本当に
上げ潮、勢いのあることを感じていました。当時の人口が 82~83 万人だったのではな
いかと思うのですけども毎年増えておりまして、当時、県民所得が一度だけですけど
も全国のベストテン入りをしています。昭和 62 年だったと思いますけども。かつての
40 位からそのくらいまで上がっていたのですね。その時に実は私は企画課長というの
をさせていただいて、総合計画を作らせていただいたのですが、その中でやっぱり人





口は 90 万人以上ということと、県民所得ベストテン入りというのも記述していたと思います。これはなんの根拠もなく言っていたわけではなく、先ほどの新藤理事長からもご紹介があったように、同じく大都市圏の近郊で盆地の滋賀県がすでに先に県民所得の全国ベストテン入りを果たしていたわけです。それを見れば山梨県もそういうことが可能なのではないかというふうに思っていました。平成 3 年、当時、望月知事から天野知事に代わるということがあってその年にわたしは自治省に帰りました。その時点平成 3 年にバブルがはじけました。次に私が参りましたのは 1998 年でありまして、ちょうど 3 年余、15 年前までおりました。その時には、バブルがはじけたあとの後処理をするのにたいへん苦勞した記憶があります。来たらいきなり甲府西武が撤退をしてしまうということもあってですね、それを買い取ったりとかしていました。そこには、いま新しい庁舎が建っています。そんな時期でしたが人口は増えておりまして、私が離任する 2001 年 7 月くらいで 89 万、もうすぐ 90 万人に達するかという時期だったわけです。それから今、私も今回こういうご講演を引き受けしているので調べてみましたが、数年前まで 85 万人と言っていたと思ったら、もう 83 万人にまで減っているということでありました。

スライドは 2000 年以降の山梨県の人口を際立たせるように書いてありますが、2000 年以降の山梨県の人口減少をどういうふうに分析するのかと、他の都道府県と比較してどのような知見が得られるのかと書いてあります。私が山梨県に来た時に思ったことがひとつありまして、山梨県というのは全国における自分の立ち位置というのを見定めるのが非常に難しい県だということのように感じました。これはどういう意味かといいますと、この間、小川和久さんという方がご講演されていて日本は世界の安全保障がわかるかと言うと、これはぜんぜんわからないとおっしゃられるのです。理由はなにかというと日本はまわりを全部海に囲まれていて陸続き隣からだれかが侵略してくるということは考えたこともない、あるいは難民が陸続きで来るという事は考えたこともない。その国に世界の安全保障がわかるわけがないとおっしゃったのです。同じように山に囲まれた山梨県は隣県との交流が少ないこともありますし、もうひとつは隣県に似た県があまりないのです。そういうこともあってなかなか立ち位置が難しいです。これは立ち位置が難しいという意味は他の県を見るとわかるのですが、たとえば私の先輩がいた静岡県がありますけども、静岡県の財政課の査定というのは本当に簡単なのだそうです。これは愛知県と神奈川県を比べてどちらか低いほうにするというルールが決まっているのだそうです。それから、もうひとつ、お互いに比べられて大変なのが北陸の 3 県です。福井県と石川県と富山県というのがものすごく競い合っています。実はこの 3 県は全国でも裕福な県なのですが、先ほどの新藤理事のお話のとおり、人口が低い県と比べるのかと、福井県、山梨県と、人口が 100 万人に



満たない県を並べています。和歌山県も 100 万人を切ってしまいました。これで見ると、太いオレンジが山梨なのですね。まあまあ、そんなに減っていないではないかというふうに思うかもしれませんが、実は全体の人口が現時点で 100 万人を切っているなかで、山梨は特殊な位置にあります。

次のスライドを見ていただければわかるとおり、1982 年から比べたらぐっと人口が伸びている。伸びてから落ちているのですね。他の県はダラダラずっと落ちていることになっています。このグラフを見ていただいて、ちょっと前のページで 2000 年以降の減少の状況に戻ると、佐賀県よりも人口減少のペースが大きいのですね。実際のところをいって、山梨県は 100 万人未満の県とお互い比べるとという県ではない。私は、そんな実力ではないと思います。やっぱり比べるべきは大都市近郊県、首都圏でいえば東京、神奈川、千葉、埼玉、この 4 県は別格ですから別に考えるとして、例えば茨城、栃木、群馬、山梨県庁の財政課にいる時に査定で北関東と比べることはありました。この県を見て、長野、岐阜、三重、滋賀、奈良、岡山と、こういうふうに並べてみました。一番上のとんでもなく上に行っているのが滋賀県です。ずっと伸び続けています、2000 年以降も。それから、このオレンジが山梨県です。山梨県は首都圏近郊の県のなかである時まで伸びていましたが、下がってきています。山梨の下がっているペースがすごく大きいということがわかると思います。みなさんどういふふうに分析していたかという事なのですが、これが、大都市近郊県を、2000 年をスタートとして比較してみると山梨県が一番減っています。2000 年以降 2015 年までに、なぜ山梨県の人口は減ったのかということについて、やっぱりそのところは原因があるはずなので分析をやるべきだと思います。山梨県の人口ビジョンを見たところ、ITバブルがはじけて製造業がグローバル化の中で山梨を離れたと、いうようなことが書いてあります。しかし、グローバル化の影響というのは山梨だけにきたのでしょうか。それは同じようなことはこれで見るところの群馬県や栃木県、茨城県にも同じことがいえたのではないのでしょうか。その時に、先程の忍野村のファナックさんの話とか韮崎市の東京エレクトロンさんの話が出ていましたが、この間になぜ企業が出て行ったのかということは考えておかなければいけないと思います。それは、その進出企業が山梨県の企業になっていなかったのではないのでしょうか。

実は、都市別に見ると長野県は全体的に見るので、長野県のほうが山梨県よりももちろん下落率が大きいのですが、長野県の中でもたとえば、松本市の人口はそんなに落ちていないのです。進出企業がやっぱり山梨県の地場企業になるという努力が欠けていたのかもしれないと私はなんとなく思います。このあとはシンポジウムのパネリストとして出てください藤波さんのご本に書いてありまして、既存企業と自治体の意思疎通の不足が結果的に自治体からしてみれば大きな魚を逃がしたといえる事例につな



がったこともありましてと。事業再編などによる大手企業の事業所移転や統廃合というニュースが流れてから初めて、それまで没交渉であったにもかかわらず、産業担当の地元行政幹部や知事が企業のもとにとんでいったものの後の祭りだったという話、こういうことが書いてありまして、これはどこでも起こることなのですが、そういうことがなかったかどうかと、そういうことを考えてみる必要はあると思います。

もうひとつ、例えば進出企業から見て、こういう話をするのもなんですが、先日の山梨市の市長さんが職員採用の収賄で逮捕されたということが出ておりましたが、そういう市町村に立地したいと思うだろうか、進出企業がいつまでもいたいと思うだろうか。というようなことは考えないといけないだろうと思います。そこはいろいろ考えることがあるということだと思います。ただ、山梨県のイメージ自体は私の印象でいきますと、最初に来た昭和 61 年に比べると著しく改善していると思います。たとえば当時まだまだ、ワインという言葉はそんなに有名ではありませんでしたが、今はワインといえば山梨、山梨の甲州ワインがすごいブランドになっているというのは事実です。これはある日の朝日新聞ですが、「人気の移住先で山梨、長野、揺るがず」。こういうくらいイメージは良くなってきているのだと思います。その中で何をしなければいけないのだろうか。ただ、これも他の調査だと決して良くなかった。こちらの別の調査を見ていただくと、長野県は 3 番目に入っていますけど山梨県は入っていない、というのもあったりするので、そのへんをよく見なければいけません、これだけで喜んでいてはいけないだろうと。北杜市さんは国土交通白書の中で紹介なんかもされています。これくらい魅力があるところと言われるところもあるのでまだポテンシャルはかなりあると思いますのでその点を頑張っていたいただきたいと思います。そういう意味でいくと、これも先程言った藤波さんの本で書いてあることなのですが、人口が増えるということは良いことだと思います。減らないということも良いことだと思います。なぜならば、その地域が暮らしやすいということを意味しているのだろうと思うのです。そういう指標と捉えた時にやっぱりこれも藤波さんが書いていますが、単に、住居の斡旋というのは地域に暮らす若い世帯のライフプランに沿った暮らしが出来る社会を構築していくことだろうと、そうした社会の変革は移住者のみならず、地域に暮らしてきた地元出身者の生活環境を保全させることにもつながる。どうやって暮らしやすい地域を作っていくのかということは考えていただきたいなと思います。



それで、リニアのことを盛んにおっしゃっていました。理事長さんが今おっしゃったとおり、私もリニアが来たからや山梨に行く、というのではなくて、実は終点にならない場合はストロー効果のほうが大きいのではないかと懸念というのがあるのではないのでしょうか。北陸新幹線が金沢まで通りましたが、意外に富山県が奮闘している



ということが話題になっております。富山県にも結構恩恵がある。ただ、富山県の事情を見ますと大変な危機感を持っていて、北陸新幹線が出来ても全部金沢に取られてしまうのではないかと、ものすごい危機感を持っていて、どうやって来てもらおうかということ相当、見ていただければわかるように開通の数年前からずっとそういうプロジェクトを立ち上げて官民でなにをやるかということをやっていました。どこからお客さんを取っていかうかということをやっていました。そういう意味で、リニアが来た時にどうするのか、1時間に1本しか来ないわけですから過大な期待は出来ないとはいえますけれども、そういう中で何をやっていくのかをよく考えていただけないかなと思います。それで、リニアが来た時に書いたことなかで実は品川からなので空港が非常に近くなると書いてあります。それはおっしゃるとおりで、山梨県の人には非常に便利になると思います。その意味で、じゃあ外国の人が来てくれるかということなのですが、リニアを使って外国の人が来るかどうかというのは実はお値段次第だと思います。みなさん、ジャパン・レール・パスというのはご存知ですか。これは外国の方が日本に来る時に必ず買ってくるJRのパスです。どこでもある一定金額で乗り放題なのですが、赤字で書いてあるところを見てくださいと、東海道、山陽、九州新幹線ののぞみ号、みずほ号は利用できないとなっています。リニアが出来た時にJR東海さんがこのJRパスをリニアに使うことを認めてくれるかどうかということは非常に重大な問題なので、今のうちから考えたほうが良いと思うのです。私の想像だと東京と名古屋を結ぶリニアには適用しないと思います。なので、各駅停車だけでもなんとかしてもらおうということは考えなければいけないと思います。その点はいろいろみなさん考えていただければと思います。それとリニアが来て本当に人口が増えるかというところではなくて、むしろさっきの山梨県の人口プランの中で東京に隣接した県であるということを活用しなければだめだということが書いてありました。それはおっしゃるとおりだと思います。だけど、実際に国土交通省の審議会で山梨県の委員をしていただいている中井先生が発表された時の数字を勝手に借りてきておりますが、市町村別の地域別の人口の増減状況なのですが、峡南地域が減っているのは当たり前なのですが、人口が減っているのが上野原とか大月とかいう鉄道で東



京に近い地域でずっと減っているのです。平成 7 年から 17 年まで。これを山梨県の圏域別の人口で見えます。これを見ますと、一番上は峡西地方で南アルプス市なのですが大きく伸びていまして、一番下の青いのが峡南地域。その次の大きく減っているのが上野原・大月を集めたところ。上野原・大月で一番ピークの時と比べるとだいたい 1 万 3,000 人くらい減少しています。1 万 3,000 人減少しているのですけれども、実をいうと私、相当ショックだったのです。私、企画課長の時に命じられて上野原町にある帝京科学大学の誘致というのをやっています、フジタ工業さんの工業団地の誘致買収もお手伝いしていました。当時の上野原の企画課長さんはいへんに鼻息が荒くて、この工業団地ふたつが全部埋まって大学が来て、そうすればうちは不交付団体になって県の言うことなんか聞かない、と言っていたのです。それが、なんと今は人口 2 万何千人。それで当時そう言っていた根拠のひとつが四方津ニュータウン、今はコモアしおつですけれども、あそこにも相当の人が来るということでした。今、現実に 4,000 人くらい住んでいます。その上でこの減少なのです。大月にもありますよね、JR さんがつくった団地が。それがあってこれだけ減っているということはなぜなのか考えてみないといけないのではないかと。

隣接しているだけで東京の人が来てくれるわけではない。東部地域に関して気になることは、今回、大月市さんと上野原市さんの人口ビジョンを見学しましたところ、市民アンケートをとってございまして、大月市の場合で自分のところが住みやすいか住みよくないかと答えたときに、住みにくいとどちらかといえば住みにくい合計が住みやすいを越えているのです。

上野原のほうを見ても、まあまあ住みやすいと住みやすいを合わせて大体半分なのに対して、あまり住みやすくないと住みにくいで半分もある。これで、あるところの県が継続的にこれを調査しているのを見たのですが、普通のところは住んでいるのだから 6 割 7 割の人はまあ住んで良いというふうにおっしゃるのだと思うのだけど、なんでこういう結果になっているのだろうか、それはやっぱりちょっとかえりみる必要もあるのではないかと私は思います。それで私、自治体学校が立川にありまして、立川にいた感じで言いますと、多摩地域はまだ人口が伸びています。多摩地域って小さいように見えますが実は 400 万人の人口があります。今日私も朝、スーパーあずきで参りましたけれども、その時に立川や八王子から相当な方が乗ってきています。新宿からよりも多かったです。立川や八王子にいる人がわざわざ品川に出てリニアに乗るわけがないわけで、あわせて、中央線沿線ですべてどうしていくのかというのを考えていかなければならないのではないかなというふうに思います。

ちょっと時間がなくなってきましたが。もうひとつは、実は人口減が今東京都で、特別区で、若い人が流入していると言っていますが、その半分くらいが外国人だとい



うことをご存知でしょうか。実は、今外国人が非常に増えています。これが在留外国人に占める総人口の割合というものがあまして、入管の規制があがってからどんどん上がっています。リーマンショックの時に下がったのですが、また上がっているのです。東京都とか福岡県とかの、福岡市とかの人口増の多くは、外国人だったりします。その時に重要なのは多文化共生ということで、外国人の人が暮らしやすいところに外国の人が来て、それで人口が増えているのだと思います。

もうひとつ申し上げておきたいことは、多文化共生は外国人とは限らない、日本人の間にもあるということです。日本国の中が多様化しているということを考えていただけないかと思っています。と言いますのは、これが外国人の滞在規制が増えてから、夫妻の片方が外国籍の方の国籍別の夫妻の婚姻ケースがこんなに増えています。それでいくと、わが国の新生児数、合計特殊出生率合計がなかなか伸びないといわれているのをご存知だと思いますが、実は、片親が外国人の方の新生児数というのは2万人くらいでだいたい一定しています。今、全国の、このグラフでもわかるように新生児はだいたい100万人ですので2%くらいは片親が外国人の方が産んだ子供ということになっています。それが1997年頃からスタートしている。これを見ていただくとわかんると思いますが、それから20年経ってなにが起こっているかということ、日本人スポーツ選手の中に混血の方がたくさん増えている。みなさんご存知のように野球のオコエ瑠偉選手や100メートル走っているみなさんです。それから、この間の甲府戦で2点を入れてくれたハーフナーマイク選手もです。そして、エリアナさんという方はミス・インターナショナルの候補になった方です。その方が書いているのですが、やっぱりいじめがあったと書いておられます。お母さんに励ましてもらったから何とかなったけど、この方は佐世保の出身なのですね、いじめられたと言っています。右から4行目に書いてありますが、ミス・ユニバースになれたのはアイデンティティに悩んでいたハーフの友人が命を絶ったことがきっかけだと、自分が表に出ることで苦しんでいる人のために何かをしなければと思ったということが書いてあります。やっぱり、これからどうなっていくかということ、政府の政策で移民政策は取らないと言っています。言っていますが、実は一番上の外国人労働者受け入れの基本的考え方というのを自民党が出していますが、国家戦略として人口が減少する中でわが国の活力を維持するためには外国人に今以上に活躍していただくことが必要であり、そのような観点から現在の外国人労働者数90万8,000人受け入れは移民にはあたらないと。留学生30万人計画というものもあります。経済財政の基本方針では外国人材の受け入れ、活用するというふうに言っています。そういう方が入ってきて結構東京は留学生とかそういう人が若年人口の流入の半分位を占めているのだと思います。山梨はそういう中で来ている数はどのくらいかということ全国の真ん中くらいだったと思います。それは自分で確



認していただければと思いますが、やっぱりそういう意味でも外国人が住みやすいところを考えて欲しい。もうひとつ、県の人口ビジョンの中で県外にいる大学生が山梨に戻りたいかというアンケートがあるのですが、その中で着目したのが山梨から出ている県外の大学生で、女性の方が山梨に戻りたいという人が半分を切っている。44%しかいない。その中で半分の50%の人が山梨に帰ったのでは自分のやりたいことが出来ないというふうに返事をしている。これは女性にとって山梨県というのは働きにくいところなのではないかと、というふうに思っていたきたいのです。だからやることはいくらでもあるのではないかという気がしています。多文化共生やってみてください。

少し時間が超過していますが、最後にヴァンフォーレの話をさせていただきます。

私がこれから申し上げることは当然、総合球技場を早く造ってくれというサポーターとしての偏った意見です。当然、私は偏った意見で言っていることは間違いありませんが、その前提のもとでみなさん若干、勘違いをしていることがあるのではないかと考えています。

これは2000年の甲府でして、ご案内にもよく出るのですが、見て欲しいことは選手のプレーではなくて、選手の胸にスポンサーがついていない。後ろのスタンドをみるとガラガラだと、こういう2000年の状況でした。その時にワールドカップの2年前でワールドカップのエースの中田英寿選手だとわかっているのに潰れそうになっていたと、これはいかんということで、深沢社長さんが天野知事に話をして、署名の募集も始まって、そして川淵三郎さんも来て、そしてここにありますように主要4株主が1年間続けましょうと決めた。左から2番目に野口社長さんがいます。左が韮崎市長さん、天野知事さん、甲府の山本市長さん、この時に3,000人という目標を立てました。それを見事に達成していただいたわけなのですが、当時、サポーターの受け止めは3,000人という目標ははっきりいえば潰すための言い訳ではないかと。2013年にヴァンフォーレ後援会というところの方が書いた本の文章に、当時はそう思ったと。だけどあとから考えてみると3,000人という目標が経営をしていくためには必要な数字だし、山梨でも達成できる数字だと、いうことが今になってわかったというようなことが書いてありました。この株主会議の後、私、野口社長さんをお願いしてありまして、とにかく優秀な方を社長に出してくださいとお願いをいたしましたら、指名されたのは、かの有名な海野さんであります。海野さんは指名された直後に挨拶に来られるということでアポイントが入っておりまして、挨拶に来られたのですが、その時に本当に怒っておられまして「なんで俺がこんなことをしなければいけないんだ」と怒られました。私は、「海野さん、そんなことを言っても、ここでサッカーで立て直してやれば自分の天下ですよ」と、「山梨だけではなく全国に有名になりますよ」と言ってなだ



めたのですが、「そんなことを言ったってそのうち、どうせ東京に帰って見向きもしないだろう。」と、こう言われまして、それで「そんなことないです。応援します！」といった関係で今でもまだ観に来ていて、いう次第であります。

ただ、私この時に 3,000 人の目標を作ったときにはもう、だいたい 8 割はいけるのではないかと思っていました。海野さんが社長になったときには海野さんをよく知っていましたので 9 割くらい大丈夫ではないかなと、その時に思いました。それで無事にいったわけです。そのあとは海野さんがやっていることをずっと見ているだけです。うちわやるとか、ボランティアをお願いするとか、小さい看板をいっぱい立てるとか、いっぱいアイデアを出していただきました。山梨の小瀬はボランティアが多いことでも有名です。地域貢献活動も、それが原因で応援している人が多いということがヴァンフォーレ甲府の特徴になっております。

これがヴァンフォーレ甲府の順位の推移なのですが、見ていただいて、最初は 10 分の 10、11 分の 11、3 年間連続で 12 分の 12 と、最下位でした。それからご案内のとおり 2005 年に入れ替え戦を経て、2006 年に上がったと。2007 年にあがって、2008 年に落ちて、4 年くらい経って今現在 5 年連続 J 1 にいます。私は正直にいうと、5 年連続 J 1 にいて危機感が薄れていてまた第 2 のピンチが来るのではないかと心配をしています。みなさんが 5 年連続 J 1 にいるということを奇跡だということを、必ずしもご理解いただいているように思うということです。

もうひとつ申し上げたいのは実はこのヴァンフォーレ甲府の経営推移については、J リーグから見ると本当に希望の星だったのです。それはなぜかという、J リーグは発足当初から、日本中にサッカークラブを作っていこうと構想を持っていました。ところが、景気が悪くなって横浜フリューゲルスが撤退をしたということもあって、全国に広がるかどうか不安に感じていました。それで、J のクラブを見ていただきますと、18 クラブになって 99 年に 16 と 10 で J 1 と J 2 に分かれます。J 2 に分かれたあと、J 2 のチーム数が、見ていただきたいのですが、10、11、12、12、12、12 と、2005 年まで 12 クラブです。全然増えていません、J 2 は。これはあきらかにヴァンフォーレ甲府の経営危機を見て小さな県はプロサッカーチームを持てるわけがないと、全国は思っていたのですね。ところが、前のページを見ていただいて、2005 年に入れ替え戦があって J 1 に上がるというのを見たあと、2006 年以降、13、13、15、18、19、20、22、22、そしてこの J 3 まで 2014 年から全部で 52 クラブ、現在では 2017 年で 57 クラブある、こういうところまで来ました。99 年の時には 26 クラブだったのが倍以上になったと。それはヴァンフォーレ甲府がそういうふうにプロビンチアでやってくれたと、こういうふうに思っているわけです。しかも今は 5 年連続で J 1。で



も、これがヴァンフォーレ甲府の経常収益でして、J 1 に上がった年に 13 億に上がって次の年に 16 億。これがピークです。そのあと経常収益は 15 億前後でずっと推移しています。これは平均観客動員にも影響しています。実際に一番ピークが 207 年の平均 1 万 3,000 人、現在、国立で出来なくなったこともありだいたい 1 万人ちょっとで推移しています。なぜ 1 万人ちょっとで推移しているか。これは、ひとつは人口という問題もありますが、もうひとつはスタジアムのキャパシティです。小瀬の球技場は 1 万 5,000~6,000 人と言っていますけどもシートの関係からそんなに入れません。もうひとつは観にくいということがあります。さっき私が奇跡だ、奇跡だ、と言ったのは、これはみなさんの資料についているのであとで見たいのですが、J リーグのクラブの、経常収益が 15 億円と言いましたが、これは J 1 のチームの中でももちろん最低です。ヴァンフォーレ甲府の次に少なかったコンサドーレ札幌でも 19 億あります。それから平均入場者数の 1 万人というのは最下位ではありませんけれども、ビッグクラブよりもかなり低いです。

そういう中で 15 位にいる、残り 3 試合ありますが、新潟と大宮と仙台に勝ってほしいと私ももちろん思っているわけですが、こういうふうな順位に、これはもう奇跡です。15 億円で 5 年連続 J 1 に行くなんて、ここで見ていただくと名古屋グランパスというのが上のほうにあります、あれは 47 億円ですよ。たとえば、ジェフユナイテッドだって 20 数億円出しています。この順番を営業収益の順番で見ると、甲府は J 2 の 6 番目といっても不思議ではないのです、金額だけからいえば。それだけのことを今やっているということです。入場者数で見ても 3 番目です。みなさん、J 1 に残ってくれないかなと思っているけども、J 2 に落ちたらちょっと困るなと思っているかもしれませんが、私が思うに、ヴァンフォーレ甲府とサポーターのみなさん、県民の皆さんはやっぱり、いつかは J 2 に落ちることはあるのだと、この規模で J 1 にずっといられること自体が奇跡だと思っていなければいけないし、もし落ちたとしても経営陣とか誰かの責任を問うという話はありません。ただもうひとつ希望を申し上げます。たとえば J 2 に落ちても今の規模の支援を出来れば 6 位以内には入る力があります。財政的にいっても入場者数からいっても、6 位以内に入れば必ず毎年 J 1 にチャレンジする権利があります。そういうことでいくとその域にいるのは仕方がない。この 15 億円を増やしていくことが出来ればですけども、はっきり言えば J 1 にずっと定着するには最低 30 億円といわれていますのでそれはかなり厳しいかと思えます。



そういう中でスタジアムの話なのですが、これは一番熱心な方々がいらっしゃるバックスタンドです。これで見たいのはこれだけ旗が立っているのを見てほしいのではなくて、グラウンドを見てほしいのです。今の一番熱心なサポーターはこんなに観にくいところから観ているのです。それでこれが実は



柏のバックスタンドです。ゴール裏との距離を見ていただけますか。ほんの少ししかありません。たとえばメインスタンドから見たとき、これは小瀬のロイヤルボックスから撮った写真ですが、バックスタンドが見える距離と、下は柏のスタジアムです。どんなに眺めが違かわかりますよね。それから、たとえばバックスタンド、甲府から見るとゴール裏の看板があつてスタンドまでがものすごく距離があるのがわかりますか。一番熱心な方たちがああいうところにいる。上のほうのスタンドはジェフですが、こんな感じですぐ裏にいるわけです。実はJリーグのスタジアムの基準というのがあります。それでいくと、ここに書いたのですが基本的に今から造るところは全部スタンドを、屋根をつけてくださいということになっています。それから席は甲府みたいにフラットな席ではなくてひとつひとつの席で区切れるようにしてくださいということになってきています。そういうのは、いつかは守らなければいけないわけです。そういう意味で言ったらたとえば屋根があれば、これは仙台ですけれども、屋根があればこのあいだのような大雨の時でも人々は、山梨のサポーターも雨にぬれずに観ることが出来るのです。ところが、これはこの間の神戸戦で来た神戸のサポーターです。サポーターの方はみなさんご存知かもしれませんが、私はよく電車に乗って来た時は、甲府の駅で帰るみなさんいっぱいお土産を買って行ってくれていますよ。経済に相当寄与していただいていると思うのですが、そういう方たちが、実はこういうふうな感じで来ることになってしまう。屋根がないがために。これも当日のサポーターの姿ですが、屋根がないということになってしまう。見ていただくと、晴れていればいい。実は甲府は相手がどこのチームでも同じくらいの客数が来ていただけるのですが、さすがに雨には勝てなくてこの間の試合は5,000人しか来ませんでした。もうひとつは、左から見ていただきますと、マルが書いてあるところがサッカー専用スタジアムをホームにしているところです。J1のほとんどが、マルがついていることがわかると思います。それだけではなく、もうひとつ見てほしいのは、一番右側、J3です。最近やっているところはほとんどマルがついています、半分以上に。サッカーはサッ



カー場で観るものだと、みんな思っているのですね。これがスタジアムです。だから最近つくったところはみんなこうなっています。左下、これが長野のバルセイロ、J3のチームのために長野市が建設したスタジアムです。右側が松本のアルウィンというところ。そういうことでありまして、ぜひ、みなさん一緒にスタジアムに行くためにもできるだけ早くつくることがサポーターを捕まえることにもなりますし、サポーター達に楽しく観てもらいたいなと私は思っていますし、そうなれば県外からもたくさんお客さんが来るのではないかと思います。

そして、そういうふうにチームがあれば子供達が将来自分達も夢を持ってサッカー選手になろうとか、そういう夢を持てるということになるので、ぜひ、私も雨が降るところではスタンドの下で観たいと思っていますので、よろしく願いをしたいと思っています。以上であります。